

第29・30合併号

発行 丸橋 歯科「良い歯の会」
発行所 群馬県高崎市栄町21-1
TEL 027-323-9524
FAX 027-322-3139
http://www.maruhashi.com/
E-mail:maruhashi.s@cb.wakwak.com

いのち 医・農・智

圧倒的な 波に 抗い
本質を 見つめ続けた
三十年
確信に 満ち
岩の根のように
強く ゆるぎない
一歩一歩の 積み重なりは
やがて大きな
流れとなり
原初の心を ふるわせる
変わらない 本姿の姿
いのち (仁志)

「良い歯の会」機関紙

いのち

生命を見つめる知性の礼儀
「良い歯の会」主宰
丸橋 賢



臨床で見る不思議

第一回の「良い歯の会」を開いたのが昭和五十六年七月十一日です。開業してから三十二年になります。その間、多くの方々のご理解に支えられ、「良い歯の会」は一回も休むことなく、外部での講演活動を合わせて参加者は延べ五万八千人を越えました。お力添えいただいた皆様から感謝申し上げます。歩んできた道を振り返ると、教えられ、発見することの連続で、私の見方や生命観、医学観もずいぶんと深まったことに気付かされます。そんな中で、最も堅持しなければならぬ大切な基本は、私たちに於て生命現象の多くは未知なことばかりで、知り得たことはほんの僅かであり、知らないことを忘れてはいけないということです。そのような謙虚な態度を忘れると、目は曇り、真実は見えなくなってしまう。

歯周病や咬み合わせの治療で、私たちは幾度も新しい考え方と方法を確立してきましたが、全く新しい分野が見えるようになるための条件とは、常に自分たちの前に立ちほだかる未知を承知し、既存の学説や権威を盲信しなかったことにあると思います。自分の無知を恐れる態度こそ、真実に迫るために最も必要なものなのでしょう。反対に、無知の無知たる由縁は自分の無知を知らないことになりません。

最近も、とても不思議な症例に出会いました。インプラントを行い、補綴物を覆せた女性の手指の水泡が悪化してしまつたのです。インプラントや補綴物の金属によるアレルギーや咬み合わせ、その他感染などの原因も疑いましたが、どれも有力とは思いませんでした。金属のアレルギー検査もマインスでした。小さな水泡が集合



①補綴物を入れた直後に、原因不明の水泡が悪化した。(写真a、b)
②観察と熟慮の後、微妙な咬合調整の結果、治った。(二ヵ月後)

咬み合わせの僅かな不調和が原因だつたのだと考えるのが妥当ですが、どんなメカニズムで水泡が現れ、消えたのか、現在の学問では未知の世界です。私も初めて見た症例です。

不思議なことは沢山あります。自殺願望の二人の女性は、咬合調整したとたんにガリと考え方が変わり、前向きな考えになりました。味がほとんどわからなくなつたのが治つたり、生理痛が消えたり、全く未知の大海の中を考えながら進むような部分があり、臨床には多いのです。

謙虚な目

真実は姿を見せる

科学で全てがわかると豪語し、私を批判した超有名大学の先生がいました。しかし私の確信によれば、これでわかつたと思ひ込んで瞬間、さらにその先を見る目の可能性を開き出すのです。これが定説だと決め込み、常識とか権威に依つた人の目は、真実を探している目ではないのです。

観察と確信

優れた観察力がある農家は素晴らしい作物をつくり出します。奇蹟のリンゴと呼ばれたリンゴ農家、木村秋則さんの観察力はすごいものです。たとえば常識ではテントウムシはアブラムシをほとんど食べべてくれると信じられていますが、木村さんは一日中観察し続け、その常識はウソだと気付きました。テントウムシは一日に二匹くらいしかアブラムシを食べず、ほとんど食べ続ける虫は名も知らない、とても小さな虫だつたのです。木村さんは雑草や虫や病気や土の温度などを、常人では考えられない執拗さで観察し続け、ついに不可能と言われたリンゴの無農薬無肥料栽培(自然栽培)に成功したのでした。木村さんには常人を越えた観察力と、常識を疑い、観察が教えにくれた真実に従う確信がありました。この観察力と確信こそ真実に達する唯一の方法であることを教えてくれます。

医と農と智

「良い歯の会」の機関紙の名前は、いのちです。医農智という言葉は、当て、医と食と生命の健全度は一体で切り離すことのできないものだという概念を表し、私たちの全人医学観を象徴しています。全人医学の旗を高く掲げて、既成の通説や価値観を盲信せず、目の前には未知の大海と自覚し、私たちは一歩一歩先に進みたいと思つています。たとえば一人は地球より重いという甘い言葉を私は信じることはできません。人間は自然より大切だと盲信してよいのでしょうか。アレキシシス・カレルは民主主義思想という大前提にも疑問を示しています。大いなる自然の掟の前で自らの無知を恐れ、謙虚な心で観察する態度こそが、生命に対する大切な礼儀なのではないでしょうか。そのような人間のまなざしと生命の時代が、ほんとうの優しさと生命の時代が、ほんとうの姿を現すはずなのです。

昭和四十九年九月、高崎市轄町に丸橋歯科クリニックを開業しました。私たちは意欲に燃えていました。東北大学の新設歯学部に進んだ私たちは、それまでほとんどがそうであつた痛くなつたところだけを治療する歯科ではなく、患者さんを一口腔単位で考え、口腔内全てを健康にすることを教育されてきました。学生実習の時に、根の先まできちんと根管治療されたレントゲン写真を歯科医の従兄に見せ、このような治療をしていきたいと抱負を話した時、そんなことは実際の臨床の世界ではやってられないよと一笑に付されました。それでも、自分に恥じない治療をしたいと誓って歩み出したのでした。懸命に治療しました。未熟さの限界までごまかさない仕事をしたいと思ひました。院長が、どんなに手術しても治らない歯周病に直面していた頃、自分の忙しさとストレス、好きなお酒が重なって急性膵炎で緊急入院することになってしまいました。私も体を気遣つて栄養のある食物を努めてきたはずでしたので大いにショックでした。このことは現代食の問題に気付いて「良い歯の会」を立ち上げていく原点となりました。

光に向かつて歩む
30周年に寄せて
丸橋 裕子

昭和四十九年九月、高崎市轄町に丸橋歯科クリニックを開業しました。私たちは意欲に燃えていました。東北大学の新設歯学部に進んだ私たちは、それまでほとんどがそうであつた痛くなつたところだけを治療する歯科ではなく、患者さんを一口腔単位で考え、口腔内全てを健康にすることを教育されてきました。学生実習の時に、根の先まできちんと根管治療されたレントゲン写真を歯科医の従兄に見せ、このような治療をしていきたいと抱負を話した時、そんなことは実際の臨床の世界ではやってられないよと一笑に付されました。それでも、自分に恥じない治療をしたいと誓って歩み出したのでした。懸命に治療しました。未熟さの限界までごまかさない仕事をしたいと思ひました。院長が、どんなに手術しても治らない歯周病に直面していた頃、自分の忙しさとストレス、好きなお酒が重なって急性膵炎で緊急入院することになってしまいました。私も体を気遣つて栄養のある食物を努めてきたはずでしたので大いにショックでした。このことは現代食の問題に気付いて「良い歯の会」を立ち上げていく原点となりました。

昭和五十六年七月に始められた「良い歯の会」は一歩ずつのちが求める本来の食とは何か、人間らしい生き方とは何かを問う「良い歯の会」の思想に深められていったのです。多くの院内研修会や特別講演会、「自然といのちを守る県民会議」の活動、海外調査などが行われ忙しい日々が続きましたが、新しいことに気がく喜びは疲れを忘れさせてくれました。矯正治療もただ歯並びを整えるという治療から、本来の咬合を考え、咬合治療班とタイアップして正しい咬合を確立する治療へと進化してきました。以前には改善することのできなかつた患者さんの悩みを解決する道も拓けてきました。この仕事にはこれで究めたという地点はありません。やってもやっても満足できません。力尽きる時まで努力を続けなければならぬのです。
たくさんの悩みを抱えた大人の私たちの治療が多くなつていますが、私の願いは子どもたちがそのような苦しみを負うことが無いよう、小さいうちから歯の大切さを知り、健やかな心と体を育てていくことです。矯正治療は子どもたちが不正咬合にならないよう見守り、手助けをしていくことを本来の仕事にしなければならぬと思ひます。昨年「よいはちゃん歯なし国へ」という童話を出版しましたが、子どもたちに「良い歯の会」の思想を楽しく理解し、歯を大切にすることを大事さを知って欲しいとの願ひからです。
丸橋歯科の中核となつてきたスタッフに親と子のための「良い歯の会」もやって欲しいという夢があります。この夢はさつと実現されるでしょう。信頼するスタッフの活躍が楽しみです。
たくさんの方の困難と苦しみがありました。その時にできる限りの道を歩んで歩んでいきたいと思います。



母の生きざまから子どもだんご

昭和60年
いのち第4号より

丸橋 賢

去年の六月二十八日のことであつた。十日後に迫つた自然といのちを守る県民会議主催の特別講演会「生存の条件を探る」の準備のため、私は多忙を極めていたが、その朝もポスターやパンフレットを持ち、市内の生長の家事務所まで参加のお願ひに行つて、診察所に戻つたのが十時頃であつたと思う。自宅へ入ると間もなく電話が取り継がれ、父から「マサルか。」

父は確認する調子で言った。気軽に電話をかけた私の耳に、それはよい声に響いた。「お母さんが倒れた。」

続々父の声は今度は平静で、私は一瞬下りとしたが、その声にほとりとした。あるいは驚いものなのか、と、しかし様子詳しく聞いてみる。と重態のようであつた。意識はなく、今、急車です。急車です。急車です。脳卒中らしいと言われている。脳卒中らしいと言われている。脳卒中らしいと言われている。

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」
「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」
「お前、忙しいから身体に気を付けてなよ。」
「お前、母の最後の声になつたよ。」

死の床から

病室に入るなり、もう駄目だ、

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

真の目的をもち

人生の意味を知り、自分の内発的目的(真の目的)を持つて生きる時間(真の時間)を生きていく。フランクは言う。それに対し、他者から与えられた目的(仮の目的)に向かつて生きるという時間の連なりが、真の生である。フランクは言う。それに対し、他者から与えられた目的(仮の目的)に向かつて生きるという時間の連なりが、真の生である。フランクは言う。それに対し、他者から与えられた目的(仮の目的)に向かつて生きるという時間の連なりが、真の生である。

「取寄所生活の始めから終わりまで、一度も歯を磨くことはできず、また食物の屑かか著しいウィタミン不足にも拘らかわらず、以前の最も健康な栄養の時代よりもよい歯肉をもつていたという事である。また半年間同じシャツを着て、一度も洗つてこがでず、手は土の仕事を汚れて傷だらけであつたも拘らず、一度も傷が化膿のこするこはなかつた(夜と霧)。」

「未来を失つたともに彼はそのよほどろを失ひ、内的に崩壊し身体的にも心理的に転落したのである。」

「中略」
小さな声で彼は私に囁きかかっていた。五月三日、この仲間Fが彼の夢について私に語り、彼の夢はまだ希望に満ちており、彼の夢の声を聞いたことは正しいであろうと確信していた。一方その声によつて予言された期間はすでに近づいてきた。そして軍事情報によつて取寄所に入つてくるうちには、戦線が実際に五ヶ月の間は解かれていく。Fはひどい論議せんもこの状態に

と私は思った。酸素吸入し、薄目を開けたままの顔には既に生気がなかつた。Fは、麻由も来ていた。Fは、麻由も来ていた。Fは、麻由も来ていた。

「お母さん、ポスター、麻由も来ていた。Fは、麻由も来ていた。Fは、麻由も来ていた。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

手術の失敗から

二十年苦しみ続けた母

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

弱い体で強く生きる

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

弱い心を抱えて

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」



一歳の誕生日に一私を抱く母

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

弱い体の退化病と闘つ

平成7年
いのち第14号より

丸橋 賢



いつも体調が悪かった
大学時代の私

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

弱い心を抱えて

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

丸橋 賢

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

強く生きる決心

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

生きる意味を持つ人は強い

平成5年
いのち第12号より

丸橋 賢



国際全人的医療学会で来日した、V・E・Fランクル博士と私

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

強く生きる決心

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

強く生きる決心

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

「お前、あずかたポスターは全部貼つたよ。なるべく自立つ所を選んだ。バス停とか駅。八日には皆なで行くから。」

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

強く生きる決心

「お前、倒れる三十分前に電話で話した母の声は元気であつた。」

長寿研究から見る健康と食

辻本 仁志

ベストセラーとなった「動的平衡」から引用すると、シエンハイマーの研究から、アミノ酸に標識をつけた食べ物をマウスに三日間食べさせ、その分子の行方を追ったところ、瞬く間に全身に散らばり、その半分以上が脳、筋肉、消化管、肝臓、脾臓、膵臓、血液などありとあらゆる臓器や組織を構成するタンパク質の一部になった。そして、三日間マウスの体重は増えていなかった。つまり、体を構成していたタンパク質が捨てられ、新しく入れ替わったのである。その時の食事そのもので私たちの「動的」な体が形作られ、体質を変えてゆく証拠である。丸橋歯科では生活習慣の乱れから生じる歯周病の患者さんを治療させてきた。臨床の試行錯誤の中から得た食事内容の大枠は①主食は未精白穀物②ビタミン、ミネラル、食物繊維をしっかりとる(緑黄色野菜、海藻、小魚、大豆製品、ゴマなど)③タンパク質は植物性を中心に(植物性動物性16:4)である。当院の食事指導により2週間程度で、治療をしていない歯周病の膿が止まり、歯肉の色が改善した。



勉強会の様子。スタッフ全員で共通の認識をもつよい機会となる。

海を幸食するため長寿で、七八歳でも仕事をこなすのに対し、輪島の海女は二度精白した米、魚を多食し、肉も多く食べ、野菜をほとんど食べないため五十歳前後で仕事をやめ、短命であるとの記載は象徴的である。もう一つは家森幸男先生の「ついに突き止めた究極の長寿食」である。開発した100%脳卒中を起こすラットにより、魚や大豆タンパク、カルシウム(小魚や乳製品)、マグネシウム(海藻)などを投与することで脳卒中を予防できることを証明した。また、血液と尿で食べたものを正確に分析する手法を開発し、世界の長寿地域を調べた結果、大豆、魚、緑黄色野菜、減塩食、日本食の欠点を補うカルシウム、果物の摂取が長寿に結びついていることを突き止めた。さらにこれらは、活性酸素が体の細胞を壊すのを抑え、痴呆等の病気の予防にもなることとしていた。伝統的な食事を守ってきたがゆえに長寿であったエクアドルのビルカバンバが脚光を浴び、観光客や都市生活者によってあつという間に食生活が変化し、長寿返上になってしまったことは、我々日本人にも示唆を与える。真実を知り、世界に誇れる日本の食文化を保守することの大切さ、またその欠点を補う方法を学ぶ2冊であった。

この2冊の本について、当院スタッフで勉強会を行なった。今後により理解を深め、患者さんの指導に役立ててゆきたい。



丸橋連雀町歯科がオープンしました

平成二十二年三月一日、第一回の良い歯の会が開催された連雀町診療所が、良い歯の会30周年の節目に丸橋連雀町歯科としてオープンしました。良い歯の会や夜遅くまで研修を行っていた研修室に立つと我々スタッフも感慨深いものがあります。

診療台七台、最新のレントゲンやレーザー、インプラント設備なども兼ね備え、地域医療に貢献できる施設になっていきます。今後とも宜しくお願いします。

良い歯の会に参加しましょう！

Table with 4 columns: 日 (Date), 時 (Time), 場 (Venue), 内 (Content). Details: Monthly 2nd Sunday, 1:30-5:00 PM, Marukubo All-Dentistry 3rd floor seminar room, 4 consecutive sessions.

「良い歯の会」30周年記念講演と相談会

「良い歯の会」30周年記念講演会 2010年5月16日(日) 11:00開場 13:00開演 高崎市文化会館 参加：無料

30周年の記念講演に家森幸男先生をお招きしWHO(世界保健機関)を拠点に世界中を踏査した結論をお示しいたします。これこそ究極の健康長寿食…。絶対にお聞き逃し無く!

講演 13:00~「良い歯の会30年の確信- 生命を見つめる知性」 「良い歯の会」主宰 丸橋全人歯科院長 丸橋 賢 14:15~「究極の健康長寿食-世界調査でわかった歯と食の関係-」 武庫川女子大学 国際健康開発研究所長、京都大学名誉教授 家森幸男先生

30周年に寄せて、多くの方々から文章を頂きました。当時エネルギーシフトにご指導いただいた先生の中にはかなりの年齢の方もいらして、30年という歴史の重みを感じています。関わってこられた方々の人生に良い歯の会の理念や思想が影響を与え、また逆に、多くの方の活動や生き方に学びながら良い歯の会が着実な歩みを進めてきたことが編集を通して伝わってきました。

30年間で延べ人数にして5万8千人以上の方に参加していただいた良い歯の会。本物の食材や真の目的に向かって生きることが我々を健康へと導くこと、世の中の圧倒的な流れに反しても本質を見抜き、自分の確かな判断で選択し、生きてゆくことの大切さ等をその時々トピックを交えながら伝えてきました。今後も良い歯の会に一人でも多くの方に参加していただき、よりよく生きる気づきを得ていただければと思います。(辻本仁志)

「良い歯の会」30周年東京特別講演と無料歯科相談会
いのちの奇蹟-輝く医と農と知と-
2010年10月24日(日) 午前10:00~
有楽町マリオン 朝日ホール 参加：無料
30周年を記念した東京講演に奇蹟のりんご農家木村秋則さんを迎えます。生命が輝く生存条件を木村さんの経験と丸橋院長の30年の臨床を基に皆様と考えます。

インプラントの実際
噛み合わせ不良の予防と治療
インプラントで安心
歯で守る健康家族
全人歯科革命
全人的治療への道
癒しの思想

丸橋 賢の絵本
エリカのお花ばたけ
すいせん村のねこやしき